



旅するムサビ プロジェクト



関わる人々が共に学び合う

これからの美術教育の可能性を提案する取り組みです。

旅するムサビプロジェクト（通称：旅ムサ）は、学生が全国各地の小中学校を訪れ授業を実施する取り組みです。美術館がない地域で中学美術教諭をされている本学卒業生からの「生徒に本物の美術作品を見せたい！」という依頼に対して、学生の作品を学校に持ち込んで鑑賞授業を行ったことを契機に2008年にスタートしました。

旅ムサは、美術の楽しさや多様性を子どもたちに伝えると共に、学生自身のコミュニケーション能力やファシリテーション能力の向上、そして現場教員の研修や授業改善に大きな成果を出しています。学生が主体となって様々な人々と協働し、美術を通してこのような学びの場を生み出していく旅するムサビプロジェクトは、美術大学ならではの新しい取り組みであり、美術を身近な存在にするデザインです。

旅するムサビの活動

小中学校からの依頼に対し、学生がチームを組み、企画立案、依頼者とのやりとりから実施まで、すべて学生自身が行います。またプロジェクト実施の際は、地域の大学生や作家ともコラボレーションしながら、様々な活動に取り組んでいます。

対話型鑑賞

みて、はなして、深めよう



学生の作品を学校に持ち込み、対話しながら鑑賞します。対話型鑑賞では、学生のファシリテーター*が、子どもたちの感じ方や考えを引き出し、自由に話し合います。そして作者の話聞き、作品についての考えや見方を深めていきます。子どもたちは、対話を通して互いの違いや存在を理解すると共に、表現力やコミュニケーション能力など、これからの社会に必要な力を獲得していきます。

*体験学習や会議などにおいて、物事を中立な立場で促進させる者のこと。

ワークショップ

みんなでつくる造形体験の場



学科も学年も違う学生がそれぞれの専門性を活かし企画・運営しています。造形活動を楽しんでもらうことはもちろん、それぞれの現場で抱えている想いや、課題に向き合うための手立てとして、学校や美術館、地域の方と連携しながら取り組んでいます。参加者と学生が共に刺激しあいながら双方向に学びあう場です。



黒板ジャック

いつもの教室が非日常に！



子どもたちに内緒で制作した個性豊かな黒板の絵が登校してくる彼らを驚かせます。子どもたちは「なにこれ！」「どうやって描いたんだろう」と話したり、隣の教室の黒板を見に行ったりと様々な反応を見せてくれます。絵は始業時間前に消されます。短い時間の出来事ですが、子どもたちがその日を新鮮な感覚で過ごし、その驚きとともに美術への関心を引き出す活動です。

公開制作

開かれたアトリエ



学校の空き教室や美術室をアトリエとして借り、学生が居候しながら制作を行います。教室には休み時間や放課後に子どもたちが訪れ、様々な交流が生まれます。学生が悩みながらも制作に向かう姿勢や、日に日にできあがっていく作品、会話などを通して、普段の授業とは異なる角度から美術に出会う機会です。

ムサビる！ School Art Project



「学校を美術館に！」をコンセプトに、真夏の2日間、展示会を行うプロジェクトです。旅するムサビプロジェクトの一環として2009年に開始しました。子どもたちが普段通っている小学校や中学校の教室で行う学生や本学教員作品の展示のほか、中学生とのコラボレーションによる展示（中学生企画）や、ワークショップなどを展開しています。

新たな取り組み

旅ムサは、学校や地域の希望、学生のアイデアによって、毎回新しい活動に発展していきます。近年は活動の場を海外にも移し、上海や台湾を訪れ、現地の小中学校の児童生徒と作品鑑賞を通じた交流や現地の視察などを行っています。

旅ムサステイ



学生が旅先に1週間から2週間程度滞在しながら、小学校などの施設を借りて作品制作を行い、作品展示や鑑賞授業、黒板ジャックなどをしてくる試みです。現地の方にお世話になり生活しながら、その場所の自然や食などの様々な文化に触れ制作をする経験はとても貴重なものです。

朝鑑賞



「対話型鑑賞」の活動を、小中学校の授業が始まる前、朝の学習の時間に行うのが「朝鑑賞」です。週に1度、各学級の担任の先生がファシリテーターとなり鑑賞を行います。継続して取り組みを行なっている学校では、学級経営や授業改善、教員の指導力の向上へ繋がりをみせています。

旅するムサビの仕掛け人

三澤一実



武蔵野美術大学
共通デザイン・教職課程教授

学校と美術館の連携及び美術館の教育活動の実践、また校種間連携の授業や題材開発などにも関わる。

美術との距離が縮まる



薄羽由実子

油絵学科油絵専攻2年

これまでの活動の中で印象的だったのは、ある中学校での鑑賞の授業です。対話型鑑賞後、自由鑑賞の時間に自らが鑑賞した作品を友人に紹介し、「作者さんはこう話していたけれど、自分は～」と自分の考えまでもを乗せて伝えている姿に感動しました。その姿は、鑑賞前とは比べ物にならないほどに生き生きと生きている、生徒達と美術との心の距離が縮まったと実感しました。友人達と意見を交わしながら鑑賞をするというのは、自らの意思、感じたことの尊さを知る貴重な時間になっているのではないかと考えています。

2008年から開始

今年で10周年！

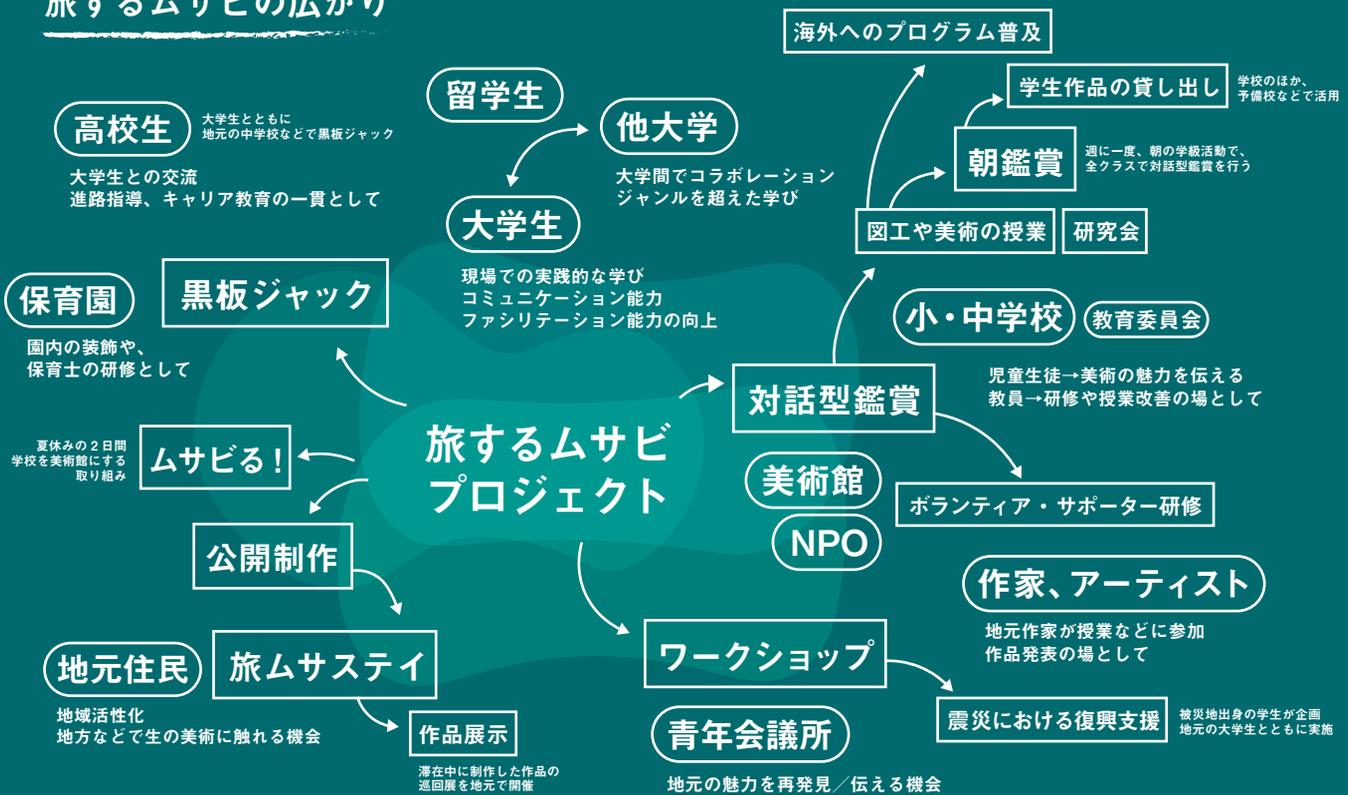
全国25都道府県、海外2箇所で

のべ260回以上の活動を実施 (平成29年8月31日時点)

約30,000人の子どもたちや教員などと交流



旅するムサビの広がり



美術を通して社会を変えていく

旅するムサビプロジェクトは、他大学と連携した活動へと拡大しており、2016年度までに24大学とのコラボレーションを行なっています。また、小中学校や高等学校の授業のみならず、教育委員会の研修や美術館の講座などにも利用されています。海外でも活動を展開し、2015年に上海、2016年・2017年には台湾を訪れ、台湾に向けては鑑賞教育のプログラム輸出を開始しました。このような活動を通し、旅するムサビプロジェクトは本学だけのプロジェクトではなく、課題解決へのプラットフォーム形成へと成長しています。



2017年度グッドデザイン賞を受賞しました！

学生の自主的な活動として、10年以上続く実績が高く評価されました。「教育・推進・支援手法」の分類では美術大学として初の受賞となります。

お問い合わせ先

武蔵野美術大学 法人企画グループ 社会連携チーム
9:00-16:30 (土・日・祝除く)
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
tel : 042-342-7945 fax : 042-342-7942
e-mail : kokuban@musabi.ac.jp

最新情報は大学ホームページをご覧ください
http://www.musabi.ac.jp/collaboration/spread/tabimusa_project/

旅するムサビブログ
<http://tabimusa.exblog.jp>